

ビション・フリーゼの改正部分

改正	現行
<p>■沿革</p> <p><u>ビション・フリーゼはルネッサンス時代にイタリアからフランスに持ち込まれた。非常に小型のバルベ（FCI公認犬種）のような外貌をしていたため、「barbichon」と名付けられ、後に短縮して「ビション」となった。17世紀及び18世紀に多くの著名な画家が王、貴族及び他の特筆すべき人物に付き添うそれらの小さな犬たちを描写した。ナポレオン3世時代に再び流行し、その時代では「Ténériffe」として知られていた。その時代に普及され、ベルギー及びフランスの両国で愛される犬種となった。第1次世界大戦及び第2次世界大戦後にほぼ消滅したが、少数のフランス及びベルギーのブリーダーたちの情熱により、その個体数が再構築された。ベルギーに登録された最初の犬は1924年3月23日に生まれた Pitou であり、1932年にベルギーのスタッドブック（LOSH）に登録された。フランスのスタッドブック（LOF）に最初に登録されたのは牝のビション・フリーゼの Ida であり、1934年10月18日であった。現在のフランス名である Bichon á poil frisé は1978年に与えられ、Franco-Belgian 犬種として公認された。</u></p> <p>■重要な比率</p> <ul style="list-style-type: none"> <u>・ビション・フリーゼは高さよりも長さがあり、体長は体高よりも長い。長方形のボディである。</u> <u>・スカルの長さとマズルの長さの比率は3対2である。</u> <u>・胸の深さは地面から肘までの高さと同じである。</u> <p>■習性／性格</p> <p><u>どこへでも問題なく連れて行くことができる、真のコンパニオン・ドッグである。神経質でも、しばしば吠えることもなく、知らない人や犬に対しても大変社交的である。順応性が非常に高く、主人に大変懐く。</u></p>	<p>■沿革</p> <p>アフリカ大陸に面した大西洋上に浮かぶカナリア諸島の土着犬を、16世紀頃フランスで小型化するのに成功し、貴婦人の間で香水で洗う白い抱き犬として流行した。マルチーズやプードルの影響を受けているものと考えられる。</p> <p>フリーゼとは縮れた毛、ビションは飾るという意味のフランス語で、もじゃもじゃの巻き毛に飾られた犬としてフランス国内で愛されていたが、今から20数年前アメリカで独創的なカットが開発され、これに工夫が加えられ、現在のショー・カットとなって世界的流行犬種となった。</p> <p>■重要な比率</p> <p>無し</p> <p>■習性／性格</p> <p>無し</p>

■頭 部 (ヘッド)

ボディと良く釣り合いが取れている。ホワイトの頭部にある目と鼻の3つの黒い点は、正三角形を成すべきである。

□頭蓋部 (クラニアル・リージョン)

スカル

飾り毛によって丸みがあるように見えるが、触るとかなり平らである。額溝は僅かに認められる。スカルはマズルよりも長い。幅は長さよりも短く、頭部の5分の3の長さである。眉弓は顕著過ぎない。

□顔 部 (フェイシャル・リージョン)

マズル

付け根は非常に幅広で、鼻先に向かってもあまり先細らず、頭部の5分の2の長さを成す。鼻梁は真っ直ぐで、下向きでも、上向きでもない。

顎/歯 (ジョーズ/ティース)

上顎及び下顎とも幅広で、両方に 6本の揃った切歯がある。シザーズ・バイトが望ましいが、ピンサー・バイトも許容される。完全な歯列が望ましい。

目 (アイズ)

非常にダークな、中位の大きさで、やや丸みのある形をしており、アーモンド型でも突出もしていない。目は斜めに付いてはならない。目縁の色素沈着は完全にブラックでなければならない。犬が前方を向いている時には、白目が見えるべきではない。

耳 (イヤーズ)

耳は垂れており、豊富な被毛で十分に覆われている。耳はアイライン上に付き、正三角形を成し、頬に沿って垂直に垂れている。耳を前に引っ張ると、耳朶は少なくとも唇の端には到達すべきであり、最長ではマズルの半分に達するべきである。耳はよく動き、特に犬が何か注目した時によく動く。

■頭 部 (ヘッド)

ボディと調和している。

□頭蓋部 (クラニアル・リージョン)

スカル

飾り毛によって丸く見えるが、触るとかなり平らである。スカルはマズルよりも長い。

□顔 部 (フェイシャル・リージョン)

マズル

決して太かったり、重かったりしてはならないが、スニッピーではない。眉弓の間の額溝はわずかに認められる。

顎/歯 (ジョーズ/ティース)

咬合は正常である。すなわちシザーズ・バイトである。

目 (アイズ)

ダークな色調で眼瞼もできる限りダークであることが望ましい。やや丸みがあり、アーモンド型ではない。斜めには付かない。生き生きとし、大きすぎず、白目は見えない。ブリュッセル・グリフォンやペキニーズのように大きくなく、出目でもない。眼窩は突き出ているではない。眼球は目立ちすぎてはならない。

耳 (イヤーズ)

垂れており、細かくカールした長い毛で十分に覆われ、何かに注目した時には、やや前方へ保持するが、前部の先端はスカルに触れるようであり、斜めには離れない。耳朶の長さはプードルのように鼻まで届いてはならず、マズルの半分までである。プードルほど幅広くないが、見事である。

■ボディ

□トップライン

真っ直ぐで、尾の付け根に対しほぼ水平である。

□キ甲（ウィザーズ）

かなり目立つ。

□背（バック）

水平で、筋肉質である。

□尻（クループ）

幅広で、僅かに丸みを帯びており、極僅かに傾斜している。

□胸（チェスト）

良く発達しており、肘まで良く降りている。
前胸は深く、仮肋は良く張っている。胸はやや長い。

□アンダーライン及び腹部

胸底は、腹のラインに向かって適度に巻き上がっている。
脇腹は良く巻き上がっており、皮膚はきめ細かく、たるんでいない。

■尾（テイル）

尾付きは適度に高く、背のラインより僅かに低い。
通常は上げて保持し、脊柱に沿って優雅にカーブを描くが、巻き込むことはなく、断尾もされない。
尾の先端は背の被毛に接触しない。
尾の飾り毛は背にかかっても良い。
歩行時に尾が垂れ下がってはならない。

■四 肢（リムズ）

□前 肢（フォアクォーターズ）

肩（ショルダー）

良くレイバックしている。

前腕（フォアアーム）

真っ直ぐで、あらゆる面から見て垂直である。

手根（カーパス）

頑丈で、しなやかである。

前足（フォアフィート）

堅固で、丸く、緊握しており、内向も外向もしていない。
パッドはブラックでなければならず、爪もブラックであるのが望ましい。

■ボディ

□トップライン

無し

□キ甲（ウィザーズ）

無し

□背（バック）

無し

□尻（クループ）

わずかに丸みを帯びる。

□胸（チェスト）

見事に発達している。胸骨は目立っている。
仮肋も丸みを帯び、急ではない。胸は十分な深さで水平である。

□ひばら（フランク）

ひばらは腹の部分で十分に巻き上がっている。
皮膚はきめが細かく、たるんでおらず、かなりウイペットのような外貌をしている。

■尾（テイル）

プードルよりも背のラインよりわずかに低く付く。
通常は上げて保持し、脊柱と調和して優雅にカーブを描くが、巻き込むことはない。
断尾されず、背と接触してはならないが、尾の飾り毛は背にかかってもよい。

■四 肢（リムズ）

□前 肢（フォアクォーターズ）

肩（ショルダー）

かなり傾斜しているが、突出していない。
上腕と同長の外貌である。約 10cm。

前腕（フォアアーム）

無し

手根（カーパス）

無し

前足（フォアフィート）

強健である。爪はブラックが理想であるが、それに準ずる色でも良い。

□後肢（ハインドクォーターズ）

一般外貌（ジェネラル・アピアランス）

骨盤は幅広である。後肢は筋肉質であり、後望すると互いに平行であり、垂直である。

膝（スタイフル）

良く角度があり、内向も外向もしていない。

下腿（ローワー・サイ）

大腿とほぼ同じ長さである。

飛節（ホック・ジョイント）

低く付き、明瞭である。

中足（メタターサス）

すっきりとし、狼爪（デュークロー）はない。

後足（ハインドフィート）

堅固で、丸く、緊握しており、内向も外向もしていない。パッドはブラックでなければならず、爪もブラックであるのが望ましい。

■歩様（ゲイト／ムーブメント）

素早く、自由な歩様で、グラウンド・カバリングに富む。トロット時は、頭部を高く保持し、尾は背上に十分カーブする。後軀の動きは良い。平行歩様である。

■皮膚（スキン）

ボディ全体にぴったりと張っている。ダークな色素沈着が望ましいが、毛色に影響を及ぼすことはない。陰囊はブラックであるのが望ましい。

■被毛（コート）

□毛（ヘアー）

豊富な被毛である。上毛はゆるい螺旋状の巻き毛を形成している（巻き毛の構造である）。柔らかく密生している下毛がなくてはならない。被毛は平らでも、縄状でもなく、ウーリーでも、もつれてもいない。

□毛色（カラー）

純白である。生後12カ月前までは被毛に僅かなベージュ（シャンパン）の傾向があってもよいが、この色合いは犬の10%以上を覆ってはならない。

□後肢（ハインドクォーターズ）

一般外貌（ジェネラル・アピアランス）

骨盤は幅広である。

膝（スタイフル）

無し

下腿（ローワー・サイ）

無し

飛節（ホック・ジョイント）

プードルと比較した場合、ホック・ジョイント（飛節）はより角度がある。

中足（メタターサス）

無し

後足（ハインドフィート）

強健である。爪はブラックが理想であるが、それに準ずる色でも良い。

■歩様（ゲイト／ムーブメント）

無し

■皮膚（スキン）

白い被毛の下のpigmentationはダークであるのが望ましい。生殖器官はブラックか、青みがかかった色、あるいはベージュである。

■被毛（コート）

□毛（ヘアー）

見事な絹糸状で、たいへんゆるいコークスクリュー状の巻き毛はモンゴルの山羊の被毛に似ている。平らでも縄状でもなく 7~10cm の長さがある。

□毛色（カラー）

純白である。

■サイズ

□体 高

25cm～29cm

プロポーションの調和が取れており、性差が
明白な場合は、牡では体高が 1cm まで高いも
の、牝では体高が 2cm まで低いものは許容さ
れる。

□体 重

サイズの釣り合いが取れた約 5 キロである。

■欠 点

上記の点からのいかなる逸脱も欠点とみなされ、その欠点の重大さは逸脱の程度及び犬の健康並びに福利への影響に比例するものとする。

■重大欠点

- ・気質：自信を欠いている犬。
- ・頭部：尖ったマズル。
- ・鼻：色素が薄いもの。
- ・唇：ピンクのもの、または部分的に色素が抜けたもの。唇の端がたるんだもの。
- ・目：明るい色の目、目縁の色素沈着が不完全なもの。白目が見えるもの。目の下の毛には涙液分泌の跡があるべきではない。
- ・胸：発達が不十分なもの。
- ・尾：ロールアップしているもの、リング状に巻いているもの、歩様時に尾が垂直に上がっているもの、または垂れているもの。
- ・四肢：角度が不十分なもの。
- ・毛：毛量が不十分なもの及び／または被毛が広がったり、平らになったりする不適切な巻き毛。
- ・毛色：被毛に色があるもの（生後 12 か月以下の犬は例外とする）。

■サイズ

体高は 30cm を越えてはならず、小型であることが好ましい。

■欠 点

上記の点からのいかなる逸脱も欠点とみなされ、その欠点の重大さは逸脱の程度及び犬の健康並びに福利への影響に比例するものとする。

- ・わずかなオーバーショット又はアンダーショット。
- ・被毛が寝ていて平らなものや、ウェーブなもの、縄状のものや、被毛が短すぎるもの。
- ・被毛にまで色素沈着がみられ、錆色（赤）の斑をしているもの。

■重大欠点

無し

■失 格

- ・攻撃的または過度のシャイ。
- ・肉体的または行動的に明らかに異常なもの。
- ・歯列：顎前突症（オーバーショットまたはアンダーショット）。
- ・鼻、唇の端及び眼瞼の縁の色素が完全に抜けているもの。
- ・目：小さく、アーモンド型で、突出しており、明る過ぎる目。ウォール・アイ。
- ・毛：巻き毛の構造が完全に欠けているもの。
- ・毛色：生後 12 カ月以上の個体の被毛がホワイト以外の色のもの。
- ・サイズ：許容範囲外のもの。
- ・一般外貌：ドワーフィズム（矮小発育症）の兆候が見られるもの。
- ・プロポーション：スクエア・プロポーション。
- ・陰睾丸

■追加事項

クリッピングは許容される。

頭部：耳、顎髭、口髭は頭部に丸みやベル型を与えるために短くしたり、整えたりする。

ボディ：優雅さ及びスレンダーな印象を与えるために、腰及び脇腹の毛を短くする（少なくとも 3cm 以上必要）。腹の底面には飾り毛がある。

四肢及び足：円柱上の様相である。

尾：クリップされてはならない。

■失 格

- ・ピンク色の鼻。
- ・肉色の唇。
- ・アンダーショット、オーバーショットで、切歯が触れない範囲まで発達しているもの。
- ・明るい目。
- ・尾が巻き込んでいるものや、らせん状にねじれているもの。
- ・ブラックの斑。
- ・陰睾丸。

■追加事項

足及びマズルを含めて整えられていなくてはならない。